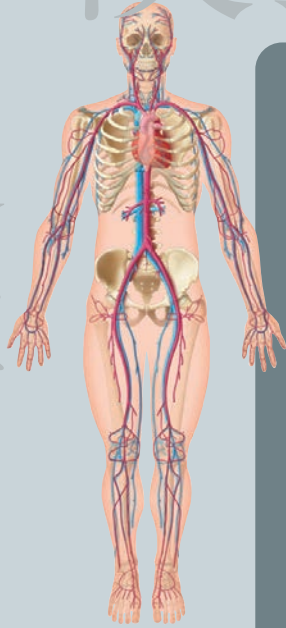


発展学習 模擬試験



看護師

国家試験

学習支援ツール



 <https://nurse.ouj.ac.jp/>

看護師国家試験の受験を目指す方を対象とした自学自習用のツールです。

別途登録不要!! 放送大学の学生の方は、今すぐご利用いただけます。

じっくり取り組むことも、短時間で学習することも可能です

時間をかけてじっくり取り組む模擬試験や、短い時間で挑戦できるランダム出題など、状況にあわせて出題形式を選べる構成となっています。解説や発展学習で、さらに知識を深めることもできます。

マイペースで学べます

放送大学の科目とこの学習支援ツールは別立てとなっています。利用状況や学習結果は単位認定試験とは関係しません。ご自身の都合にあわせて活用できます。

利用するには

ご利用の際はログインが必要です。ログイン画面が表示されたら、放送大学の ID とパスワードでログインしてください。ID とパスワードは〈システム WAKABA〉と共通です。

- ┌ ユーザー名 (ID) : 入学許可証 (または学生証) に記載された学生番号10桁 (ハイフンを除く)
- └ パスワード : 入学許可証に記載された8桁 (ご自身でパスワードを変更した場合は、変更後のパスワード)



PC



iPad



iPhone

さまざまなデバイスに対応しています

※Android は動作確認を行っていないため、動作推奨環境対象外としています。
 ※携帯電話 (フィーチャーフォン) には対応していません。

ツールの詳しい内容は裏面をご覧ください →

目的別活用法

じっくり過去問題にチャレンジしたい 模擬試験 (実施回別)

過去の看護師国家試験問題に実施回ごとにチャレンジできます。実際の試験と同様に午前問題と午後問題に分かれており、制限時間も実際の試験と同様にそれぞれ2時間40分です。

短時間で学習したい 模擬試験 (ランダム出題)

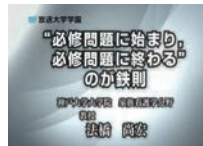
過去問題からランダムに問題が抽出される「ランダム出題」は、短時間での学習をサポートします。通勤中や通学中の移動時間を利用しての学習にも最適です。

苦手な分野を克服したい 領域別 (問題演習・発展学習)

看護師国家試験出題基準の領域別に問題演習にチャレンジしたり、発展学習で知識を深めることができます。

試験対策に必要なことが知りたい ミニレクチャー

神戸大学大学院家族看護学分野教授・法橋尚宏先生による看護師国家試験受験に向けたミニレクチャーです。それぞれ3分間程度で、受験に向けた心得・ヒントを紹介しています。



学習の成果を確認したい 評点・グラフ機能

学習結果は毎回保存され、いつでも確認することができます。評点は自分の成長度を知る手がかりとなり、グラフ（領域別レーダーチャート）は苦手分野の把握に役立ちます。苦手分野は領域別（問題演習・発展学習）で強化するとよいでしょう。



現在公開中の 過去問題

第 **105**回 2015年度 | **104**回 2014年度 | **103**回 2013年度 | **102**回 2012年度 | **101**回 2011年度 | **100**回 2010年度 | **99**回 2009年度 | **98**回 2008年度

※第98回～第100回は問題・解答のみ公開

※看護師国家試験出題基準の改定に伴い、年度の途中でサイト構成を変更する場合があります。また、サイトデザインやインターフェイスを変更する場合があります。

お問い合わせ先 **放送大学** TEL: **043-276-5111** (総合受付) 〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11

発展学習

問題を解くと、採点と同時に「解答」と「解説」が表示されます。さらにその問題に対応する学習コンテンツ『発展学習』で、その分野についてより知識を深めることができます。「発展学習」は問題を解かずに独立したコンテンツページとして見ることも可能です。解説・発展学習は日本全国の看護系教員の協力のもとに執筆されています。

看護学習支援ツール

小児の免疫グロブリンの変化

参照問題: 第105回 (午前89問)

キーワード: 免疫グロブリン IgA IgG

学習のポイント

感染防御のはたらきをする免疫グロブリンには、IgA、IgM、IgGがあります。胎児期から小児期にかけて各グロブリン値は変化し、成人の値に近づいていきます。各グロブリンの特徴と変化を理解しておきましょう。

□感染防御のはたらきをする免疫グロブリンには、IgA、IgM、IgGがあります。各グロブリン値は胎児期から小児期にかけて変動し、成人の値に近づいていきます。

図1 血清免疫グロブリン濃度の年齢による変化

- IgA**
胎盤を通過しないため、出生時の濃度は低値です。母乳中（特に初乳中）に多く含まれ、児が摂取することで受動免疫としてはたらき、消化管や気道において局所免疫として作用します。児が産生するIgAは満10歳ごろに成人並みの値になります。
- IgM**
胎盤を通過しないため、出生時の濃度は低値です。乳児期早期から産生されますが、胎内で感染があると胎児・新生児期にも産生されます。満1歳ごろには成人並みの値になります。